

#### 4 2022年度に実施した取組の事業実績

◇・・・教育プラン重点事業

■取組1-1 保護者向けの学習機会の充実【◇】	生涯学習センター
-------------------------	----------

事業概要	保護者を対象に、子どもの年齢や成長に応じて生じる悩みや問題の解消につなげる学習機会を提供します。実施にあたっては、保護者をはじめ学校、PTAなど幅広くニーズを調査し、事業内容に反映していきます。				
これまでの取組	0歳児・1歳児とその保護者、妊婦を対象とした「まなびのひろば事業」、乳幼児期から思春期までの保護者向けの学習講座を定期的を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①まなびのひろば*延べ参加者数		698人	880人	
	②家庭教育講座延べ参加者数		459人	570人	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	保護者の学習機会の把握		アンケート等によるニーズ調査・事業内容への反映		
	各種学習事業の実施				
年度目標（指標①）	730人	760人	800人	840人	880人
年度目標（指標②）	480人	500人	520人	540人	570人

\*まなびのひろば：生涯学習センターで実施する市内在住の0歳児・1歳児とその保護者、または妊婦を対象とした子育てに関するひろば事業。手遊びやスキンシップ遊び、絵本の読み聞かせ、保護者同士の情報交換などを行う。

#### <2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	D 目標に達しなかった
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により、引き続き参加人数を制限しての実施となったことから、延べ参加者数（親）は209人と目標を達成しませんでした。</li> <li>まなびのひろばとして、母親と子が参加する「きしゃポッポ」、父親と子が参加する「パパと一緒にきしゃポッポ」、家庭教育支援の担い手育成事業の修了者が企画・運営する「スマイルきしゃポッポ」を合計44回実施しました。また、「まなびのひろば」で実施しているスキンシップ遊び、うた遊びを紹介する動画3本を、子育てサイト上に公開し、3月末時点までで延べ803回のページアクセスがありました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの影響により、引き続き参加人数を制限して実施したため、延べ参加者数は497人となりました。</li> <li>家庭教育講座では、乳幼児から思春期までの保護者向け講座を合計29回実施しました。また、思春期の保護者向け講座は、アンケートによる保護者のニーズを反映し、全3回とも土曜日に玉川学園コミュニティセンターで実施しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会環境の変化やライフスタイルの多様化などに対応するため、引き続き保護者の意見を聴取し、事業内容に反映していく必要があります。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のために行っていた参加人数等の制限について、社会情勢にあわせて緩和していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>共働き世帯の増加などの社会環境の変化に対応するため事業の再構築を行います。</li> <li>講座終了後に配布するアンケートに加え、引き続きWEB上で回答できるアンケートフォームも活用して保護者のニーズを調査し、アンケート結果を参考にしながら実施内容に反映していきます。また、保護者の目線を取り入れるため、家庭教育講座の卒業生グループが企画・運営する講座を実施します。</li> <li>社会情勢の変化に応じて、なるべく多くの方が参加できるよう、参加人数の制限等を適宜見直していきます。</li> </ul>

<b>■取組1-2 家庭教育支援の担い手育成・活動支援【◇】</b>	生涯学習センター
------------------------------------	----------

事業概要	まなびのひろば事業や子育て講座などの学習機会を地域で展開できるよう、担い手を育成します。実施にあたっては、関係機関と連携しながら、ニーズの把握、育成プログラムや修了後の活動拠点などの検討を進め、家庭教育支援の充実を図ります。				
これまでの取組	家庭教育支援の担い手を育成する事業として「家庭教育支援学級」を実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①担い手育成事業修了者数（累計）		31人	164人	
	②修了者が企画した学習事業数		3事業	5事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	育成プログラム及び活動支援手法の研究		担い手育成事業の実施 修了者の活動支援の実施		
	修了者が企画した学習事業（3事業）実施		修了者が企画した学習事業（4事業）実施	修了者が企画した学習事業（5事業）実施	
年度目標（指標①）	31人	62人	95人	129人	164人
年度目標（指標②）	3事業	3事業	4事業	4事業	5事業

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手育成事業では、家庭教育講座修了者で構成されるゼミや、家庭教育支援の担い手育成事業を合計63回実施し、27人が新たに修了者となりました。修了者数は、2021年度までの92人とあわせて、累計119人です。</li> <li>・修了者の継続的な活動を支援するため、保育室等の活動場所の提供及び、家庭教育支援講座の聴講の受け入れを行いました。活動場所の提供は15回、講座の聴講は15人の利用がありました。</li> </ul>
達成状況（指標②）	B 目標を達成した
取組状況（指標②）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了者が企画した学習事業は「スマイルパーティ～スマイルママ親子ひろば～」 「親と子のまなびのひろばスマイルきしゃポップ」 「子育てサークルエンジョイタイム」 「まあいっかと思える子育て～家と身体が整うヒント～（講座）」 「子どもとの関わりにもっと絵本を～おとも楽しむ絵本～（講座）」 の5事業でした。</li> <li>・修了者の活動を活性化することを目的とした修了者同士の交流会を開催し、5団体15人の参加がありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場復帰や再就職等のため、長期間の活動継続が難しい方が増えています。2年間で実施していた学級を1年間に短縮するなど参加しやすい事業を実施するとともに、活動を継続できるよう支援を行う必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境に変化が生じて、活動が継続できるよう、支援の見直しを検討します。</li> <li>・多くの方が家庭教育支援の担い手育成事業や修了者としての活動に参加できるよう、各事業や支援を実施していきます。</li> </ul>

<b>■取組1-3 保育室を利用した家庭教育支援事業の促進</b>	生涯学習センター
-----------------------------------	----------

事業概要	子育て中の市民が親子向けイベントや講座により多くの参加機会を得られるよう、また自ら活動することができるよう、市民活動団体や市の各部署に働きかけを行い、生涯学習センターの保育室を活動の場とした家庭教育支援事業の促進を図ります。				
これまでの取組	保育室は、生涯学習センターが直接事業に使用するほか、ホールや学習室等で市民の学習活動がある際に補助的に利用されています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	保育室の年間施設利用回数		280回	380回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	情報収集 周知方法の 検討	検証	検証結果に基づく周知活動の見直し		
	市民活動団体への周知・市の各部署との調整				
年度目標	290回	300回	320回	350回	380回

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室を活動の場とした家庭教育支援事業について、まちだ子育てサイトやツイッター、町田市メール配信サービスによる情報発信を行いました。</li> <li>・家庭教育支援事業修了者の継続的な活動を支援するため、活動の場として保育室を提供しました。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響により、おやつ等飲食の一部制限を行ったうえで施設を提供しました。保育室の年間利用回数は208回（2021年度186回、2020年度151回）、利用人数は2,146人（2021年度1,730人、2020年度1,382人）といずれも2020年度以降、上昇していますが、目標値には達しませんでした。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場復帰や再就職等をした後でも働きながら活動を継続できるよう、多様な学び方を提供していく必要があります。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、アフターコロナを見据え、施設の活用を図っていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育支援事業修了者が自主的な活動を継続して行えるよう、活動場所として保育室の提供や活動継続のための支援を行います。</li> <li>・来館者や中心市街地を訪れた子育て世代に保育室を開放し、施設及び事業のPRを行います。</li> </ul>

■取組2-1 学習情報の発信力の強化【◇】 生涯学習センター

事業概要	学習情報をより多くの市民に提供できるよう、町田市ホームページモバイル（スマートフォン版）の学習情報誌「生涯学習NAVI」の利用促進を図ります。さらに、他団体で発信している情報誌やホームページなどの情報発信媒体との連携を図り、情報発信力を強化します。				
これまでの取組	ホームページや「生涯学習NAVI」の内容を見直しました。また、学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けた取組の実施		未実施	実施（2020年度）	
	②新たな情報発信媒体の活用		未実施	活用（2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	利用促進に向けた手法の検討	スマートフォン版「生涯学習NAVI」利用促進に向けた取組の実施・検証			
	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	新たな媒体の活用・検証		
年度目標（指標①）	検討	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証
年度目標（指標②）	情報発信媒体の把握・検討	媒体活用に向けた調整	活用・検証	活用・検証	活用・検証

<2022年度の事業実績>

達成状況（指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標①）	・スマートフォン版「生涯学習NAVI」の町田市HPへの掲載に加え、多摩地域の暮らしに役立つ広報誌などの電子ブックや地域情報記事を発信するサイトである「TAMA ebooks」と連携し、同社HPに電子書籍版「生涯学習NAVI」の掲載を開始するとともに、同社HPのバナーを生涯学習センターHPに設置しています。
達成状況（指標②）	C おおむね目標を達成した
取組状況（指標②）	・スマートフォン版「生涯学習NAVI」について、「TAMA ebooks」と連携し、電子書籍版「生涯学習NAVI」を刊行しています。 ・学生活動報告会「ガクマチEXPO」においてターゲット層である若者層への情報提供強化の取り組みとしてSNSを重視した広報展開を試行し、生涯学習センターのTwitterに加え、参加学生によるInstagram、連携団体のFacebook及びLINEによるPRを実施しました。これらSNSの相乗効果により、Twitter閲覧数は過去最高の約10,000アクセスを記録し、参加者数も2021年度比3.4倍の258名となりました。
課題	・学習情報をより多くの市民に提供するため、生涯学習センターの主催事業のみならず、多様な主体による学習情報を生涯学習センターが把握する必要があります。 ・引き続き、情報発信のデジタル化を進めるとともに、デジタルデバイスにも留意し、必要とする全ての方に情報が届くよう配慮が必要です
今後の取組の方向性	・「生涯学習NAVI」など生涯学習情報の提供手段について、従来の紙媒体からデジタル媒体への移行を検討します。 ・多様な主体による生涯学習情報を把握するための仕組みを構築します。 ・インターネットを利用したイベントの開催や、動画配信等による学習コンテンツの紹介、集合形式とオンライン形式を合わせ たハイブリット形式イベントの実施など学習機会の提供についてもデジタル化を推進します。

■取組2-5 生涯学習施設の利用促進	文化財係・自由民権資料館・生涯学習センター・図書館・文学館
--------------------	-------------------------------

事業概要	より多くの市民に生涯学習施設を知ってもらい、幅広い世代の利用につながるよう、リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信のほか、各施設の相互PRをはじめ、市内外の各機関と連携したPR活動を進めます。				
これまでの取組	リーフレットやホームページ、SNSを利用した情報発信を行っています。				
活動指標	指標		現状値 (2017年度)	目標値 (2023年度)	
	①連携して行うPR活動件数		4件	10件	
	②SNS発信数		219回	800回	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たな連携先の検討・調整	新たな連携先とのPR活動の実施	検証	検証結果に基づくPR活動の見直しと実施	
	SNSを利用した情報発信				
年度目標 (指標①)	5件	6件	7件	8件	10件
年度目標 (指標②)	520回	610回	670回	720回	800回

<2022年度の事業実績>

達成状況 (指標①)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習部所管施設のほか、子どもセンターや小中学校、高校、大学、専門学校、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィス、町田市国際交流協会など他施設との連携・共催事業を、自由民権資料館で7件、図書館で3件、文学館で14件、生涯学習センターで28件の合計52件実施し、施設の相互PRに務めました。</li> <li>図書館では、移動図書館車がシバヒロや芹ヶ谷公園のイベント、保育園・幼稚園に出張し、図書館のPRを行いました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Twitterによる情報発信を自由民権資料館で56回、図書館で108回、文学館で768回、生涯学習センターで78回、文学館ではInstagramによる情報発信も50回実施し、合計1,060回のSNSによる情報発信を行いました。</li> <li>図書館では、Twitterフォロワー数が毎年増加しており、2022年度には2021年度から148人増加し、1,478人になりました。</li> <li>生涯学習センターでは、学生活動報告会ガクマチEXPOのPRを、さがまちコンソーシアム、町田市地域活動サポートオフィスと連携して行い、相乗効果により生涯学習センター公式Twitterに10,000件を超えるアクセスがありました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>未利用者に向けた実施事業や施設のPRが必要です。</li> <li>InstagramなどTwitter以外のSNSの効果的な活用方法の研究が必要です。</li> <li>連携したPRのためには他施設や関係する機関との情報共有が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の愛称募集や新規講座など、施設の魅力向上のための取組を進めます。</li> <li>SNSとHPの連動やTwitter以外のSNSの活用など、情報発信の方法を検討していきます。</li> <li>2022年度に連携した他施設等を中心に早めに情報共有を図り、事業の実現を進めます。</li> </ul>

■取組3-1 地域の課題解決に向けた学習支援【◇】	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	地区協議会をはじめとした地域団体や関係機関と連携・協働しながら、住民自らが課題を見つけ出し、解決に向けて行動できるよう学習支援を進めていきます。				
これまでの取組	鶴川地区の交流促進や様々な困りごとの相談の場となっている鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ」にて「学びのひろば」を共催し、地域の歴史や文化を理解する講座などを実施しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	連携事業を実施した地区協議会の数（累計）			1地区	5地区
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各地区協議会への働きかけ				
	地区協議会との連携事業の実施	検証	地区協議会との連携事業の実施（1地区）	検証	地区協議会との連携事業の実施（2地区）
年度目標	2地区	検証	3地区	検証	5地区

＜2022年度の事業実績＞

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴川地区協議会と共催し、和光大学ポプリホール鶴川を会場に開催している「3水スマイルラウンジ」の一企画として、地域の自然、歴史、文化をテーマにした『まなびのひろば』を6回実施しました。また、スマホの使い方なんでも相談事業を新たに共催し、地区協議会の方が、デジタル庁の推進するデジタル推進委員の資格を取得するための支援を行いました。</li> <li>・玉川学園南大谷地区協議会と連携し、玉川学園さくらんぼホールと南大谷さくら会館で、平和祈念事業「夏の平和イベント」として、子ども向けに「懐かしの16mmフィルムで観る平和上映会」を実施しました。</li> <li>・デジタルデバイス対策事業として、町内会・自治会や高齢者支援団体と連携し、「出張！なんでもスマホ相談室」を5箇所で開催しました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題は多様化していることから、地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働していく必要があります。</li> <li>・事業の認知度向上に向け、広報活動や周知活動に取り組む必要があります。</li> <li>・多くの世代（特に学生）のニーズに沿った事業の展開が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題解決を支援するため、地域での学習機会の充実に向けた検討を行います。</li> <li>・地区協議会に限定せず、地域の様々な主体と連携・協働して事業を実施します。</li> </ul>

<b>■取組4-1 市民提案型事業の推進【◇】</b>	生涯学習センター
-----------------------------	----------

事業概要	学習ニーズをより反映させた内容となるよう、市民団体の提案を基に地域課題の解決につながる学習講座を提案者とともに作り上げていく市民提案型事業「まちチャレ*」を拡充します。				
これまでの取組	地域で活動する学生団体が企画・運営する学生活動報告会*を開催するとともに、市民提案型事業「まちチャレ」を開始しました。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	市民提案型事業「まちチャレ」で実施する講座数		5講座	8講座	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	5講座実施	6講座実施		7講座実施	8講座実施
	事業実施体制の整備				
年度目標	5講座	6講座	6講座	7講座	8講座

\*まちチャレ：市民が日常生活の中の課題等を基に企画提案したものを、生涯学習センターとともに実施する学習講座。

\*学生活動報告会：町田市や相模原市で活躍する学生団体が、ポスターブース等で活動内容を紹介するイベント。

### <2022年度の事業実績>

達成状況	B 目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分野の学習ニーズを講座内容に反映し、「まあいっかと思える子育て」「子どもとの関わりにもっと絵本を」「知ろう！外国にルーツを持つ子供のこと」「アートのかん」「こどもからはじまる」「障がいて特別なことなの？」「しあわせの見つけ方」の7講座を実施しました。</li> <li>・7講座のうち2講座を中央図書館、1講座を玉川学園コミュニティセンターで実施し、学びの場を広げることができました。</li> <li>・2023年度の説明会に合わせて、2022年度講座実施団体の報告会を行い、団体同士が相互に交流する機会を設けました。</li> <li>・町田市地域活動サポートオフィスとの共催で「みんなの経験共有会vol.10まちチャレやってみた！」を実施し、事業を広く周知することができました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育付講座に対するニーズが多く、子育て中の方が受講しやすい環境を整える必要があります。</li> <li>・多くの世代の多様な地域課題や学習ニーズに応える必要があります。</li> <li>・生涯学習センター以外の会場で実施し、地域で学ぶ場を充実させる必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育付講座を実施し、子育て中でも気軽に受講できる環境を整えます。</li> <li>・多くの方が講座の企画に参加できるよう、実施方法を検討します。</li> <li>・地域で学ぶ場を充実させるため、応募団体へ企画の段階で、地域実施にむけた働きかけを行います。</li> </ul>

<b>■取組4-4 学習成果の発表機会の支援</b>	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	生涯学習センターを拠点として活動している市民団体や、町田市及び近隣地域で活動する学生団体が、より多くの人に日頃の活動の成果を発表できる機会を提供します。				
これまでの取組	日頃の活動の成果を発表する「生涯学習センターまつり」、「学生活動報告会」を開催しています。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	①生涯学習センターまつりへの参加団体数 （来館者数）			53団体 （2,167人）	58団体 （2,500人）
	②学生活動報告会への参加団体数			9団体	11団体
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	生涯学習センターまつりの実施（運営委員会による内容検討）				
	学生活動報告会の実施（参加学生団体への支援・内容検討）				
	新たな支援内容の検討	新たな支援に向けた調整	新たな支援の実施		検証
年度目標 （指標①）	54団体 （2,230人）	55団体 （2,300人）	56団体 （2,370人）	57団体 （2,430人）	58団体 （2,500人）
年度目標 （指標②）	10団体	10団体	10団体	11団体	11団体

<2022年度の事業実績>

達成状況 （指標①）	C おおむね目標を達成した
取組状況 （指標①）	生涯学習センターで活動している団体の日頃の活動成果を発表する場として、生涯学習センターまつりを3年ぶりに来場型で実施し32団体が参加しました。当日は「町田時代祭り」、「文学館まつり」、「ゆうゆう版画美術館まつり」との連携企画として各まつりを回るスタンプラリーも実施したことから1,100人が来場しました。
達成状況 （指標②）	B 目標を達成した
取組状況 （指標②）	地域で活動している学生団体の成果発表と地域との協働の場として、学生活動報告会カクマチEXPOを開催しました。2022年度は学生の参画の度合いを高め、事業企画から学生の意見を取り入れ、「学生による授業」形式で開催しました。当日は、桜美林大学、玉川大学、法政大学、和光大学などから11団体が参加し、258人が来場しました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響で、活動団体数が減少傾向にあります。新たな参加団体獲得に向けた取り組みが必要です。</li> <li>・若者層、生産年齢層の参加を増やすため、事業内容や広報手段を検討していく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同日開催される近隣のイベントとの連携や事業への協力団体との連携を強化し、新たな来場者の獲得を目指します。</li> <li>・デジタルの活用など、若者層、生産年齢層の興味を引くような事業内容、広報手段を事業に取り込みます。</li> </ul>






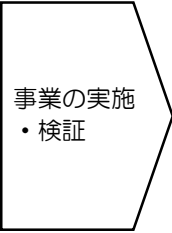

<b>■取組4-5 生涯学習ボランティアバンク事業の推進</b>	生涯学習センター
----------------------------------	----------

事業概要	生涯学習ボランティアの知識や技能を広く市民の学習活動に活かすことができるよう、生涯学習ボランティアバンク事業の更なる周知に努め、利用件数の向上を図ります。				
これまでの取組	小学校PTA連絡協議会において、保護者向けに事業の周知を図りました。 また、事業の周知のため、生涯学習センターまつりにおいて一日体験講座を実施しました。				
活動指標	指標			現状値（2017年度）	目標値（2023年度）
	生涯学習ボランティアバンクの利用件数			16件	30件
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	新たなPR 方法の検討	新たなPR 方法の実施	検証	検証結果に基づくPR方法の 見直しと実施	
	生涯学習ボランティアバンクー一日体験講座の実施				
年度目標	18件	22件	25件	28件	30件

<2022年度の事業実績>

達成状況	D 目標に達しなかった
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「町内会・自治会活動のハンドブック」への紹介記事掲載、市ホームページやTwitterによる情報発信などのPRを継続して実施しましたが、新型コロナウイルス流行の長期化により、市民団体の解散や活動停止・縮小が続き、登録団体数は2021年度比16件減の92件となり、制度の利用も2021年度比4件減の4件に留まりました。</li> <li>・登録団体の指導スキル向上のため、ものづくりの指導者養成を行っている市民団体と2023年度講習会実施に向けた調整を行いました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校のコミュニティスクールでの活用が進むよう、学校と地域の学習指導者をつなぐ仕組み作りが求められています。</li> <li>・子ども向け指導スキルの向上のため、登録団体が学ぶ機会を設けていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの影響も落ち着き、市民の活動もコロナ前に戻りつつある状況を踏まえ、制度の積極的な周知に努めます。</li> <li>・学校や子ども施設での利用促進のため、登録者向けの研修の実施や制度の改善を図ります。</li> </ul>

■取組4-6 障がい者の学習成果を発表する場の充実	生涯学習センター
---------------------------	----------

事業概要	障がいのある人が、社会で生活しながら学び続けられるように、視覚や聴覚などの障がいに応じた学習要求の調査、研究を行い、学習プログラムを開発します。その上で、発表の場を設けることで障がい者の生涯学習を推進します。				
これまでの取組	主に知的障がいのある人を対象とした障がい者青年学級において、学級ごとに学習成果の発表の場を設けるなど、生涯学習の推進に取り組んでいます。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	障がいに応じた学習成果の発表の場		未実施	実施 （2021年度）	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
					
年度目標	調査・研究	学習プログラムの開発	実施・検証	実施・検証	実施・検証

<2022年度の事業実績>

達成状況	A 計画以上に目標を達成した
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人のための学習講座【視覚障がい編】として全6回コースの講座「みえない暮らしって？」を実施しました。</li> <li>・講座の周知にあたっては、町田市視覚障害者協会や町田市社会福祉協議会などにも協力を求めたことから、全受講者のうち4割に視覚障がい者の方の参加がありました。講師も視覚障がい者の方を多く起用するとともに、受講者によるグループ発表の機会を設けたため、障がい者の発表の場を充実させることができました。</li> <li>・聴覚障がい者の方にも受講していただけるよう手話通訳を手配しました。</li> <li>・受講者同士の交流を中心とした講座としたことで、講座終了後も受講者同士の繋がりが保たれました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある方の参加が増えていますが、対象とする障がい種別に配慮したPR方法の工夫が必要です。</li> </ul>
今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの有無にかかわらず受講者を広く募集し、グループ活動、意見交換の場を大切に、相互の理解、交流が深まるよう配慮します。</li> <li>・地域との繋がりをつくり、深めていくため、町田市社会福祉協議会やFC町田ゼルビアなどとの協力、連携を図ります。</li> </ul>

■取組5-1 支援が必要な人への学習機会の提供【◇】	生涯学習センター
----------------------------	----------

事業概要	外国人居住者、障がい者、ひきこもり当事者など文字の読み書きや基礎学力の学び直しを求める人の学習機会を保障するため、学習に関するニーズ調査を行い関係機関と連携して学習機会を提供します。				
これまでの取組	障がい者を対象とした「障がい者青年学級」、ひきこもり当事者を対象とした居場所事業などを実施しています。				
活動指標	指標		現状値（2017年度）	目標値（2023年度）	
	①多文化共生*に関する学習事業数		1事業	3事業	
	②社会的困難を抱えた人への学習事業数		3事業	5事業	
工程表	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	各種学習事業の実施 関係機関への働きかけ				
	参加者アンケート等によるニーズ調査・ 事業内容への反映			市民意識 調査での ニーズ 把握	新たな 事業の 実施
年度目標 (指標①)	1事業	2事業	2事業	3事業	3事業
年度目標 (指標②)	3事業	4事業	4事業	5事業	5事業

\*多文化共生：国籍や民族などが異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、ともに生きていくこと。

## &lt;2022年度の事業実績&gt;

達成状況 (指標①)	A 計画以上に目標を達成した
取組状況 (指標①)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生に関する学習事業数は4事業実施しました。市民提案型事業で「知ろう！外国にルーツを持つ子どものこと」、国際交流センター共催事業で「まちだde トークプラザ-日本で働く外国人-」、子どもも学べる平和祈念イベントで「せかいの国となかよくなるう～世界のことで話そう遊ぼう～」、主催事業「ネパール伝統文化に触れる国際理解講座」を実施し、多文化共生への理解を深めました。</li> </ul>
達成状況 (指標②)	B 目標を達成した
取組状況 (指標②)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的困難を抱えた人への学習事業数は5事業実施しました。障がい者青年学級及びまなびテラス」を実施するほか、まちチャレでは「障がいって特別なことなの？」、「しあわせの見つけ方？」を実施し、社会的困難を抱えた人々の生きづらさを理解する機会を創出しました。障がいのある人のための学習講座「見えない暮らしって？」では、視覚障がいについて理解を深めることができました。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施にあたっては、引き続き関係機関と連携していく必要があります。</li> <li>・学ぶことに支援が必要な方の学習機会を充実させていく必要があります。</li> </ul>
今後の取組の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センター運営見直し実行計画に基づき、事業の見直しを行います。</li> <li>・多文化共生や社会的困難に関する学習事業では市民ニーズをより反映させたテーマで実施します。</li> <li>・誰もが公平に学べる環境を整備していきます。</li> </ul>